

足立工科高等学校 令和5年度 教科「工業」 科目 ソフトウェア技術 年間授業計画

教科：工業 科目：ソフトウェア技術 単位数：2単位 対象：第3学年 4組

教科担当者：(4組: 印)

使用教科書：ソフトウェア技術 (実教出版)

使用教材：

	指導内容	科目「ソフトウェア技術」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
4月	ソフトウェアの重要性	ソフトウェアの概念とその基礎的な事柄・役割・機能、ソフトウェアの違いによる位置づけなどについて理解させる。	提出物(ノート、課題)、授業に取り組む態度や姿勢、定期試験を総合的に評価する	1
	ソフトウェアの分類	ハードウェアとソフトウェアの概略を説明し、それぞれの役割と範囲を理解させる。		1
	コンピュータシステムの処理形態	ソフトウェアの分類方法を説明し、システムソフトウェア・プログラミングツール・アプリケーションソフトウェアの違いを理解させ、それぞれどのようなソフトウェアが含まれるかを理解させる。		2
5月	OSの概要	OSの基本的な働きについて理解する。すべてのOSに共通する目的について理解させる。	提出物(ノート、課題)、授業に取り組む態度や姿勢、定期試験を総合的に評価する	3
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	提出物(ノート、課題)、授業に取り組む態度や姿勢、定期試験を総合的に評価する	3
6月	OSの機能	OSの中核となる制御プログラムの機能を理解させる。ジョブとタスクの違いを理解させ、ジョブ管理・タスク管理の目的を理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
7月	まとめ	第1学期に学習した項目について復習する	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	2
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	2
8月				
9月	情報セキュリティの基礎	情報セキュリティの基本的な概念を理解させる。情報セキュリティがなぜ必要であるかを、情報資産という観点から理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4

10月	情報セキュリティ技術	コンピュータを悪意による破壊や障害から守り、悪用されない方法を理解させる。 データの暗号化方式について理解させ、実際にどのように利用されているか理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
11月	情報に関する法規	ソフトウェアの権利と法的保護について説明し、ソフトウェアがなぜ保護される必要があるのかを理解させ、ソフトウェアに対する倫理観や価値観を育成する。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	4
12月	ソフトウェアパッケージ	ソフトウェアパッケージの分類を説明し、ソフトウェアパッケージの特徴を理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	1
	アプリケーションパッケージ	アプリケーションパッケージの種類と用途について理解させ、文書処理・表計算・図形処理・プレゼンテーション・文書電子化などを行うためには、専用のアプリケーションパッケージを使い分けることが重要であることを理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	1
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	3
	まとめ		授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	1
1月	情報の収集と活用	効率のよい情報収集の方法と、それらを整理・処理・加工して、他人に発信する方法を理解させ、実際に行えるようにする。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	3
	ソフトウェアの仕組みと作成技術について	様々なアプリケーションの作成を通して、ソフトウェアのソフトウェアの仕組みや作成に必要な技術について理解させる。	授業に取り組む態度と姿勢、課題や提出物等を評価対象とし、その結果を総合的に判断して評価とする。	3
2月	年間のまとめ	一年間を振り返り、ソフトウェアについて理解を深める。	提出物、授業態度、出席状況を考慮し、理解度、進捗状況を評価の観点にいれ総合的に評価	2
3月				